



2019 年 1 月

プレスインフォメーション

新型 Audi RS 4 Avant

要約	2
Facts and Figures	4
詳細情報	6
エクステリアデザイン	6
▶ エンジン	7
▶ パワートランスミッション	9
▶ ボディ	10
▶ サスペンション	11
▶ インテリア	12
▶ ディスプレイと操作系	13
▶ インフォテインメントと Audi connect	14
▶ ドライバーアシスタンスシステム	14
▶ 装備	16
▶ ヒストリー	16



要約版

復活した RS のアイコン：新型 Audi RS 4 Avant

初代 Audi RS 4 Avant が登場したのは 1999 年。アウディが生み出したこの実用的スポーツカーは、長い年月をかけて進化を続けてきました。2017 年のフランクフルトモーターショー（IAA）では、4 世代目の RS 4 Avant がワールドデビューを果たしました。スポーツ性と日常的な使い勝手を高度に融合したこのモデルは、331kW（450PS）、600Nm を発揮する 2.9 TFSI エンジンを搭載して、A4 ファミリーのなかでも傑出したスポーツ性能を誇っています。V6 バイターボエンジンのパワーは、標準装備の quattro フルタイム 4WD システムを介して 4 輪に伝達されます。

「Audi RS 4 Avant は、アウディが誇る RS モデルの中でも比類なき歴史を備えたアイコン的存在であり、他のすべての RS モデルと同様、卓越した走行性能と日常的な使い勝手を兼ね備えています。」と、Audi Sport GmbH 代表のミハエル-ユリウス レンツは述べています。

モータースポーツから移植されたエクステリアのディテール

アウディのデザイナーは、新型 Audi RS 4 Avant を開発するにあたって、かつて北米のツーリングカーレースで活躍した Audi 90 quattro IMSA GT0 からインスピレーションを得ました。ボディのフロント部分では、RS モデル特有のハニカムパターンのグリルを備えたエアインテークと、幅広くフラットなシングルフレームグリルが大きな特徴となっています。ホイールハウジングは、ベースとなった Audi A4 Avant と比べて 30mm 幅が広げられており、さらに、quattro ブリスターにより視覚的にも強調されています。リヤも RS 専用のデュフーザーインサート、楕円形をした RS エキゾーストシステムのテールパイプ、同じく RS 専用のルーフスポイラー等により大胆な印象が演出されています。Audi exclusive から専用オプションとして設定されたボディカラー、ノガロブルーパールエフェクトは、1999 年にデビューした初代モデルのカラーを彷彿とさせます。ホイールは 275/30R 20 インチのアルミ合金ホイールが標準です。

0-100km/h 加速 4.1 秒、RS スポーツサスペンション&アウディドライブセレクトを標準装備

新型 Audi RS 4 Avant に搭載される 2.9 TFSI V6 バイターボエンジンは 331kW（450PS）の最高出力を発生します。600Nm の最大トルクは、先代モデルの自然吸気 V8 エンジンより 170Nm 増強され、さらに 1,900~5,000rpm という幅広い回転域で提供されます。それにより新型 RS 4 Avant は、0-100km/h を 4.1 秒で加速します。

2.9 TFSI エンジンの強力なパワーは、スポーツ走行に対応して特別なチューニングを施し、シフト時間を最適化した 8 速ティプトロニックトランスミッションを介して quattro フルタイム 4WD システムに伝達されます。リヤアクスルにスポーツディファレンシャルを標準装着しています。

また、ダイナミックライドコントロール（DRC）を備えた RS スポーツサスペンションプラスと RS 専用のダイナミックステアリングは標準装着。セラミックブレーキもオプション設定されています。ドライバーは、標準装備されるアウディ ドライブセレクト ダイナミックハンドリングシステムを介して、好みの走行特性を設定することができます。



レースカーを思わせるデジタルコックピット、上質な素材が採用されたインテリア

Audi RS 4 Avant のスポーティなキャラクターを反映して、インテリアはブラックが基調になっています。インテリアでは、RS スポーツシート、底部がフラットな形状の RS マルチファンクション スポーツステアリングホイール、シフトゲート、RS エンブレムが刻まれた照明付きドアシルプレートが装備されます。オーディバーチャルコックピットとヘッドアップディスプレイには、RS 専用デザインのディスプレイが採用され、G フォース、タイヤ空気圧&タイヤ温度、パワー及びトルクなどの情報を表示することができます。

ラゲージコンパートメント容量は、5 人乗りの標準時で 505ℓ が確保され、さらにリヤシートを折り畳めば最大で 1,510ℓ まで増やすことができます。電動式テールゲートは、全モデルに標準装備されています。

Facts and Figures

新型 Audi RS 4 Avant

エクステリアデザイン&ボディ

- レースカーの Audi 90 quattro IMSA GTO からインスピレーションを得た RS 専用のデザイン言語
- quattro プリスターにより強調されたホイールハウジング (Audi A4 Avant と比較して 30mm ワイド化)
- デザインエレメントとして追加されたフロント及びリヤのエアインテーク/アウトレット、RS 専用デザインのルーフスポイラー
- スポーティなシングルフレームグリル: ベースモデルよりもワイドでフラット
- RS 専用デザイン (シェード付き) のマトリクス LED ヘッドライトを標準採用した LED ヘッドライト、フロント/リヤのダイナミックインジケーター、3 次元デザインの LED リヤライト

エンジン

- 331kW (450PS) を発生する、完全に新開発された 2.9 TFSI バイターボエンジン
- 最大トルク 600Nm (旧型比+170Nm)
- 0-100km/h 加速 4.1 秒 (旧型比-0.6 秒)
- 最高速度 280km/h (リミッター作動)
- V バンク内側に搭載された 2 基のターボチャージャーによるスポーティでダイレクトなレスポンス
- 改善された燃費: 中央に配置された直噴インジェクターと B サイクルの相乗効果などにより燃料消費量を 17%削減 (欧州燃費モード比較)
- V6 TFSI ならではのパワフルなサウンド

パワートランスミッション

- スポーティでダイナミックな走行を想定して専用のチューンを施した 8 速ティプトロニック
- セルフロッキング センターディファレンシャルを標準装備した quattro フルタイム 4WD システム
- 3 つのモードが設定されたエレクトロニック スタビリゼーションプログラムとホイールセレクトティブトルクコントロール
- スポーツディファレンシャルを備えた quattro ドライブシステムもオプションで選択可能

サスペンション

- フロント/リヤ 5 リンク式サスペンションシステム
- スポーティでダイレクトなハンドリングを提供する RS スポーツサスペンションを標準装備
- ダイナミックライドコントロール (DRC) システムを備えた RS スポーツサスペンションプラスを標準装備
- 新開発の電動パワーステアリングならびにダイナミックステアリングを標準設定。
- アウディドライブセレクト ダイナミックハンドリングシステムを標準設定
- フロントにパフォーレーテッド 400mm ディスクを備えた高性能セラミックブレーキをオプション設定

インテリア

- スポーティな雰囲気を高める RS 専用のインテリアエレメント
- 完璧なクラフトマンシップ、上質な素材と新しいカラー



- 5人掛けのシート、旧モデルよりスペースが拡大した広いインテリア：フロントのショルダー룸は11mm拡大（旧型比）
- 505ℓのラゲージコンパートメント容量、リヤシートを折り畳めば最大1,510ℓまで拡大可能
- 電動式のラゲージコンパートメントカバーとラゲージコンパートメントリッド

インフォテインメントと操作系

- RS専用ディスプレイを備えたアウディバーチャルコックピット：タイヤ空気圧/温度、パワー/トルク、Gフォースなどの情報に加え、ドライバーにシフトアップを促すシフトライトを表示
- RS専用設定を採用したヘッドアップディスプレイ
- MMIタッチを備えた最上級インフォテインメントシステムのMMIナビゲーションプラス
- モバイル機器を接続するWi-Fiホットスポット機能
- 直感的に操作可能なフリーテキスト検索および自然言語によるボイスコントロールを備えた新しいMMI操作コンセプト
- Audi MMIコネクトアプリを介してオンラインロードアシスタンス、エマージェンシーコール、オンラインサービスリクエスト、リモート操作などの機能を提供するAudi connect セーフティ&サービス
- Apple及びAndroidスマートフォンをクルマと接続するアウディスマートフォンインターフェイス
- 19のスピーカーと755ワットの出力を備え、3Dサウンドを提供するBang & Olufsen サウンドシステム

ドライバーアシスタンスシステム

- 最大30種類のアシスタンスシステムがドライバーをサポート、その多くを標準搭載
- ハイライト：
 - トラフィックジャムアシスト及びストップ&ゴー機能を備えたアダプティブクルーズコントロール（ACC）
 - パークアシスト
 - クロストラフィックアシスト リヤ
 - エグジットワーニング
 - ターンアシスト
 - カメラベースの道路標識認識システム
 - アウディプレセンス シティ（標準装備）、アウディプレセンス ベーシック、アウディプレセンス リヤ

詳細版

RS アイコンモデルの 4 世代目：新型 Audi RS 4 Avant

新型 Audi RS 4 Avant は、印象的なパフォーマンスと日常ユースでの使い勝手を高度に融合したクルマです。搭載される 2.9 TFSI バイターボエンジンは最高出力 331kW (450PS)、最大トルク 600Nm を発生します。標準装備される quattro フルタイム 4WD により、最高のトラクションと加速性能を実現しています。さらにダイナミックライドコントロール (DRC) システムを採用した RS スポーツサスペンションプラス、インテリジェントなドライバーアシスタンスシステム、数々の革新的なインフォテインメント機能を備えた新型 RS 4 Avant は、毎日の足としても使える本格的なスポーツモデルです。

エクステリアデザイン

新型 Audi RS 4 Avant は、A4 ファミリーのなかでも傑出したスポーツ性能を備えています。RS 専用デザインの多くは、レースモデルの Audi 90 quattro IMSA GT0 からヒントを得ています。フロントセクションだけでなく、ボディサイド及びリヤに関しても、ベースとなった Audi A4 Avant とは一線を画したデザインとなっています。標準仕様の A4 Avant よりも幅広くフラットな形状のシングルフレームグリルには、3 次元構造のハニカムパターンが採用され、さらに quattro ロゴと RS 4 のエンブレムも装着されています。存在感のある左右ロワーエアインテーク間には、ボディと対照色のブレードが採用されています。

オプションのマトリクス LED ヘッドライトは、独特のシェイドトリムの存在により、通常の LED ヘッドライトと識別することができます。ライト外側には縦長のサイドエアインテークが追加され、RS 4 Avant の幅広さをさらに強調する効果を生んでいます。ホイールハウジングは、通常の A4 Avant と比較して 30mm 幅広くなっていますが、その上には quattro ブリスターが設けられ、力感溢れる印象が演出されています。



ボディ同色でペイントされたサイドシルエクステンションには、オプションでグロスブラックまたはカーボン仕上げを選択することもできます。サイドミラーハウジングは、通常はマットアルミ仕上げですが、オプションでカーボンまたはブラック仕上げ、さらにボディ同色タイプも選択可能です。ルーフレールも標準ではマットアルミ仕上げですが、オプションでブラック仕上げも設定されています。リヤに目を向けると、RS 専用ディフューザーインサート、RS エキゾーストシステムの楕円テールパイプ、RS ルーフスポイラーなどにより、大胆な佇まいが表現されています。

外装パーツの一部をグロスブラック、カーボンもしくはマットアルミ仕上げにするオプティックパッケージを選択することで、このエクステリアをさらにカスタマイズすることも可能です。ボディカラーは合計 8 タイプが設定されていますが、そのほかに Audi Sport から専用のオプションカラーとして、ソノマグリーンメタリックが設定されています。Audi exclusive プログラムを利用すると、1999 年にデビューした伝説的な初代 RS 4 Avant に採用されていた、ノガロブルー パールエフェクトといった特別なカラーを注文することができます。

4 世代目の RS 4 Avant の全長は 4,781mm で、先代モデルと比較して 62mm 大きくなっています。その一方で、全高は 1,404mm と、先代モデルより 12mm 低くなりました。全幅は 1,866mm で、先代モデルから 16mm 広がっています。

エンジン

先代モデルに搭載されていた自然吸気の高回転型 V8 エンジンと比較すると、新開発された V6 バイターボエンジンは、トルクと燃費効率の両面で、まったく新しい地平を切り開いています。新しいエンジンは、旧型の V8 エンジンよりも 170Nm 大きい 600Nm の最大トルクを、1,900~5,000rpm という幅広い回転域で発生します。331kW (450PS) の最高出力は、排気量 1 リッターあたり 155.5PS に相当します。それにより、新型 Audi RS 4 Avant は、0-100km/h を 4.1 秒で加速します。この加速タイムも先代モデルに対して 0.6 秒短縮されています。最高速度の 280km/h (リミッター作動) です。

Audi Sport が生産する 2.9 TFSI V6 バイターボエンジンは、初代 RS 4 Avant に搭載されていた伝説的な 2.7 リッターV6 エンジンの系譜を復活させたパワーユニットです。1999 年から 2001 年まで生産された 2.7 リッターV6 エンジンには、279kW (380PS) のパワーを誇っていました。

Audi RS 4 Avant	2.9 TFSI
排気量	2,894cc
最高出力 / 回転数	331kW (450PS) / 5,700~6,700rpm
最大トルク / 回転数	600Nm / 1,900~5,000rpm
最高速度	280km/h (リミッター作動)
0-100km/h 加速	4.1 秒
複合モードにおける燃料消費量	8.8ℓ / 100km
複合モードにおける CO2 排出量	200~199g/km
駆動方式	quattro フルタイム 4WD
トランスミッション	8 速ティプトロニック

モジュラーコンセプト：新世代の V6 ユニット

エンジン内部にかかる高い応力に対応するため、ピストンストロークを 3.0 TFSI から 3mm 短縮して 86mm にしています。ボアは同じ 84mm に設定された結果、総排気量は 2,894cc となります。エンジンの重量は 182kg と、旧 V8 エンジンと比較して 31kg も軽くなっています。それにより車両全体の重量も軽くなり、前後アクスルの重量配分も改善されています。

典型的なアウディ V 型エンジン：排気が内側、吸気が外側のレイアウト

2.9 TFSI の 2 基のターボチャージャーは、2 つのバンクのそれぞれに装着されており、最大 1.5 バールの過給圧を生み出すことができます。アウディが製造する他のすべての V6、V8 エンジン同様、ターボチャージャーはシリンダーバンクに対して 90°の角度で装着されています。すなわちこの V6 ユニットでは、シリンダーヘッドの排気系がバンクの内側に設定され、吸気系が外側に設定されています。このレイアウトにより、エンジン外寸がコンパクトになるとともに、吸気経路が短縮されて吸気ロスが最小化されています。その結果、2.9 TFSI エンジンは、ドライバーのアクセル操作に対して極めて敏感なレスポンスを提供します。

効率化のためのテクノロジー：B サイクル燃焼プロセス

この新しい V6 エンジンは、素晴らしいパフォーマンスだけでなく、燃費効率の面でも優れた資質を備えています。新欧州ドライビングサイクル (NEDC) で、新型 Audi RS 4 Avant は、100km 走行あたりわずか 8.8ℓ しかガソリンを消費しません。これを CO₂ 排出量に換算すると、200~199g/km に相当します。この値は、先代モデルと比較して、17%燃費が向上していることを意味します(欧州燃費モード比較)。この高効率を達成する上でキーとなっているテクノロジーは、B サイクルと呼ばれるアウディ TFSI の新しい燃焼プロセスです。これは、実走行で圧倒的に使用頻度が高い中間負荷領域での運転状況で、とくに高い効果を発揮します。

その一方で高負荷及び高回転での運転状況では、2 段階切り替え式のアウディバルブリフトシステム (AVS) により、インテークバルブが閉じるタイミングを遅らせて、バルブ開放時間をクランク角にして 200°まで拡げます。同時に、バルブリフトも 6.0mm から 10mm まで拡大することにより、シリンダーの充填率が大幅に向上しています。これにより、エンジンは高回転域で力強いパワーを発揮し、トップエンドまで滑らかに吹き上がります。

独立した回路：サーマルマネジメントシステム

新しい 2.9 TFSI が高効率であるもうひとつの要因は、サーマルマネジメント (温度管理) システムです。クランクケースとシリンダーヘッドにはそれぞれ独立した冷却回路が採用されています。冷間始動を行った場合には、オイル温度が短時間で上昇するように、切り替え式のウォーターポンプがエンジン冷却水の流れを調整します。エキゾーストマニフォールドはシリンダーヘッドと一体化され、ここにも冷却回路が設置されて、暖機プロセスを促進しています。エンジンの暖気がすでに済んでいる場合には、この設計により、排ガスの温度を下げるすることができます。それにより、とくにスポーティな走行をしたときの燃料消費が削減されます。新しい V6 バイターボエンジンの高効率にはまた、低い内部抵抗も貢献しています。例えば、無段階調整式のオイルポンプは、必要なだけの圧力しか発生しない仕組みになっています。

チェーン駆動のシステムを採用することで、駆動損失も削減されました。クランクシャフトのドライブ機構に採用された balanサーシャフトは、V 型シリンダーバンクの底部に設置されて、ギヤを介して駆動されます。そこから、合計 4 つのカムシャフトスプロケットにチェーンが渡されています。トリ



オーバル型をしたそれらのスプロケットは、ピークフォースを相殺するために、少し角張った形状になっています。また、 balanサーシャフトの回転にローラーベアリングを用いて、フリクションを極めて低いレベルに抑えました。

印象的：V6 バイターボの華麗なサウンド

エンジンが始動すると、力強いサウンドが発せられます。高負荷領域では、エキゾーストシステムのフラップが開いて、さらに鮮烈なサウンドが奏でられます。全モデルに標準化されているオーディオドライブセレクト ダイナミックハンドリングシステムを介して、ドライバーはこのフラップの働きを調整することができます。その点は、RS エキゾーストシステムを採用した標準仕様でも、オプションのRS スポーツエキゾーストシステムとブラックテールトリムを装着したモデルでも変わりありません。V6 バイターボエンジンのインテークシステムは精妙に最適化されており、ステンレススチール製のパイプを使用することで、事実上抵抗のないエアフローが生み出されています。

パワートランスミッション

新型 Audi RS 4 Avant には、変速時間を最適化し、迅速かつ滑らかでスポーティな変速を提供する8速ティプトロニックトランスミッションが標準で搭載されています。

ドライバーは D もしくは S の自動変速モードを選択できるほか、ステアリングホイールに設置されたRS 専用のシフトパドルを用いてマニュアル操作を行うこともできます。変速の指示はすべて、シフトバイワイヤーのテクノロジーを使って、電氣的にトランスミッションに送信されます。また、クルマを発進させる場合には、ダイナミックスターティング機能の働きによりトラクションが最適化されるため、持ち前の強烈な加速性能をフルに引き出すことができます。ただしその場合、ESC のスポーツモードを選択して、ティプトロニックのセクターレバーを S のポジションに入れておく必要があります。マニュアルモードで変速を行う場合には、ステアリングホイールのシフトパドルを操作するか、セクターレバーを前後に動かします。エンジン回転数が一定のレベルを超えると、ドライバーインフォメーションシステムもしくはオプションのヘッドアップディスプレイのシフトライトが点灯して、シフトアップが促されます。

ダイナミックなトルク分配：quattro ドライブシステム

quattro フルタイム 4WD システムは、このセグメントのモデルではユニークなテクノロジーのひとつです。前後非対称かつダイナミックにトルクを分配する設計により、quattro ドライブシステムは、Audi RS 4 Avant のスポーティで安定したハンドリングに大きく貢献しています。一般的な走行条件では、リヤに比重を置いたトルク配分が行われます。純粋に機械的に作動するセンターディファレンシャルロックにより、駆動トルクの 60% がリヤアクスルに、40% がフロントアクスルに配分されます。いずれかのアクスルでスリップが発生した場合は、即座にパワーの大半が反対側のアクスルに送られるようになります。その場合フロントに最大 70%、リヤには最大 85% のトルクが伝達されます。

quattro ドライブシステムのメカニカルな機能は、ホイールセレクトィブ トルクコントロールにより強化されています。ESC エレクトロニックスタビリティコントロールのソフトウェアにより、ハンドリングの敏捷性、正確性、安定性及びトラクション性能がさらに最適化されます。

RS 専用のチューニングが施されたオプションのスポーツディファレンシャルを装着すると、コーナリング時及び加速時のレスポンスが、さらにダイナミックで正確になります。システムの働きにより、左右のリヤホイール間で、状況に応じたアクティブなトルク配分が行われます。

Audi RS 4 Avant

Antriebsstrang
Drivetrain
09/17



RS 専用のチューニング：3つのモードが設定されたスタビリゼーションコントロール

スリップ制御機能を備えた ESC エレクトロニック スタビリゼーション コントロールシステムには RS 専用のチューニングが施されています。通常のモードに加えて、ESC の介入を遅らせるスポーツモードが設定されており、ドライバーが 3 秒以上ボタンを押し続けた場合には、ESC の機能を完全にキャンセルすることができます。

ボディ

新型 Audi RS 4 Avant の車両重量は、先代モデルと比べて 80kg 軽量化されています（欧州仕様測定値）。この重量の削減は、構造面での最適化と、複数の素材のインテリジェントな組み合わせによって実現しています。

熱成型コンポーネントにより、強度と耐衝突性能に優れた乗員セルが構成されています。これらのコンポーネントは、車体のフロントエンドとインテリアの接続部分、ウインドシールドフレームのフロント部分、B ピラー、サイドスカート、及びフロアパーツを強化するために活用されています。

卓越した振じり剛性を備えたボディは、正確なハンドリング特性や静かで快適なドライビングの前提となっています。新型 RS 4 Avant はまた、パッシブセーフティの面でも優れた資質を備えています。室内では、アダプティブ チャイルドレストレイントシステムにより、前席乗員に対し、卓越した保護性能が確保されています。このシステムは、フロントエアバッグとシートベルトのフォースリミッターの働きを、ドライバー/助手席乗員のシートポジション及び前面衝突のタイプに応じて調整します。



典型的なアバント：日常ユースへの高い適応性

20 年以上にわたって美しいデザインと実用性を融合させてきた Audi Avant モデルは、ライバルと比較して際立った存在であり続けてきました。数ある Avant モデルのなかでも、RS シリーズのアイコンモデルとして、1999 年から続く長い歴史を誇る Audi RS 4 Avant は、特別な役割を果たしてきました。

リヤシートを折り畳んだときの最大荷室容量は、1,510ℓ です。後席のバックレストは 40：20：40 の分割式で、ラゲージコンパートメントに設置されたレバーにより簡単に倒すことができます。後席を折り畳まない 5 人乗りの標準時では、ラゲージコンパートメントの容量は 505ℓ で、旧モデルと比較して 15ℓ 大きくなっています。ラゲージコンパートメントはスクエアな形状をしているため、スペースを無駄なく使うことができます。荷室スペースの幅はちょうど 1m です。

またアウディでは、オプションで、ジェスチャーコントロールによるテールゲートの自動開閉システムも提供しています（カーボン オプティックパッケージと同時選択不可）。リヤバンパーに設置されたモーション検知システムが、キーを所持したユーザーの足の蹴る動きを検知すると、リッドのロックを解除して開きます。

リモートコントロールキーとキーレスイグニッション用のスタート/ストップボタンは、新型 RS 4 Avant に標準設定されています。また、コンフォートキーにより、キーを使用しないで車内にアクセスできるようになります。

サスペンション

新型 Audi RS 4 Avant には、前後輪ともに、新開発の 5 リンク式サスペンションシステムが採用されています。このサスペンション形式により、前後方向の力を最適に吸収することが可能になっています。

新型 RS 4 Avant は、Audi Sport が提供するダイナミックライドコントロール（DRC）付き RS スポーツサスペンションプラスが標準装備となっています。スイッチバルブを内蔵した新世代の可変ダンパーを採用したことで、アウディドライブセレクトのモード選択に応じて、ダンパーの特性が明確に切り替わるようになりました。ドライバーは、標準搭載されたダイナミックハンドリングシステムのモードを選択して、好みの走行特性を設定することができます。アウディドライブセレクトはまた、エンジンやステアリングの特性も変化させます。さらに、ギヤシフトのプログラムや、エキゾーストシステムのフラップといったオプションの特性も、アウディドライブセレクトを介して 4 つのモード（auto、comfort、dynamic、individual）に調整することができます。

ステアリングは、設計が見直された電動パワーステアリングのほかに、Audi Sport から、RS 専用のチューニングが施されたダイナミックステアリングが提供されています。このシステムにはスーパーポジションギヤが採用され、速度及びアウディドライブセレクトで選択されたモードに応じて、最大 100% の範囲でステアリングレシオを可変制御します。ただし、ダイナミックモードを選んで RS 4 Avant をスポーティに走らせる場合には、ギヤレシオは 14：1 に固定されます。

新型 RS 4 Avant には、275/30R 20 インチのアルミ合金ホイールが標準です。

それら大径ホイールの背後には、パフォーレーテッド コンポジット ディスクを備えたパワフルな RS スチールブレーキが装着されています。フロントアクスルには、375mm 径、リヤアクスルには

330mm 径のディスクがそれぞれ採用されており、RS エンブレムを備えた 6 ピストンのブレーキキャリパーは、ブラックもしくはオプションでレッドのペイントが施されます。Audi Sport では、フロント用に極めて丈夫で耐摩耗性にも優れたセラミックブレーキをオプションで用意しており、その場合は 400mm 径のパフォーレーテッドディスクと 6 ピストンキャリパーの組み合わせとなります。

インテリア

新型 Audi RS 4 Avant のドアを開けると、新しい 2 トーンの Audi Sport エントリーライトと RS 4 のロゴが刻印された照明付きシルパネルストリップが、ドライバーと乗員を迎えます。LED ライトガイドは、ドアトリムとセンターコンソールのラインに沿って装着されており、オプションのコンツァーノアンビエント ライティングパッケージを選択すると、30 種類の色を設定できるようになります。インストルメントパネルの水平基調のデザインにより、上質でスポーティな RS 4 Avant のインテリアの広々感が強調されています。



新型 RS 4 Avant のスポーティなキャラクターを反映して、インテリアはブラック基調になっています。菱形のステッチとエンボス加工の RS エンブレムを備えたファインナップレザーの RS スポーツシートが標準設定されており、シートの張地はレザーとアルカンターラの組み合わせとなります。シートヒーターとランバーサポートも標準装着されています。

3 スpoke デザインを採用したフラットボトム RS マルチファンクション スポーツレザーステアリングホイールには、マルチファンクションボタンが設置され、それを使ってインフォテインメントシステムを簡単に操作することができます。このステアリングには、アルミニウム光沢ブラック仕様のシフトパドルも設置されます。ステアリングホイールのリムと RS 専用デザインのシフトゲートには、RS エンブレムが装着されています。

大きくなった寸法、13mm 延長されたホイールベース、コンパクトなシートデザインにより、ドライバーと乗員の居住スペースが拡大しています。前席のショルダー部分は、幅が 11mm 広がっています。前席のアームレスト下の収納ボックス、大型のドアポケット、2 つのカップホルダー、ライトスライ



ツチ下のフタ付き収納ボックスなどにより、日常ユースでの使い勝手はさらに高まっています。

ディスプレイと操作系

新型 Audi RS 4 Avant には、通常のアナログスピードメーター及びタコメーターに代わって、フルデジタルのオーディバーチャルコックピットが採用されています。1,440×540 ピクセルの高解像度を誇る 12.3 インチ TFT スクリーンにより、詳細で多様なディスプレイを選択することができます。ベースとなるインフォテイメント画面、クラシック画面のほか、RS 専用にデザインされた画面も設定されています。この画面を選択すると、丸形のタコメーターが大きく表示され、その中央に速度がデジタル表示されるようになります。その周囲には、任意でトルク (Nm)、パワー (パーセント)、タイヤ空気圧 & 温度 (bar/°C)、G フォースといった情報を表示させることができます。

また、タコメーターは、シフトインジケーターとしても機能します。8 速ティプトロニックをマニュアルモードにして走行する場合には、エンジン回転数の上昇がグリーン、オレンジ、レッドのカラーによっても示されます。エンジン回転数が限界に近づく、スケール全体が赤くなって点滅します。同じく RS 専用のメニューであるラップタイマーは、最大 99 ラップまでタイムを記録して、タイムの比較を行うことができます。その他、エンジンオイルとトランスミッションフルードの温度、タイヤ空気圧といった重要な技術情報もディスプレイに表示させることができます。

新型 RS 4 Avant には、さらにヘッドアップディスプレイもオプション設定されています。これを選択すると、運転に関わる主要な情報のすべてが、ドライバーの直接的な視野内にあるフロントウィンドー上に、分かりやすいシンボルや数字で投影されます。そのため、ドライバーは前方の道路から視点を移動させる必要がありません。ここに表示できる情報にもまた、シフトライトやラップタイム、エンジンオイルの温度といった RS 専用の内容が含まれています。ティプトロニックをマニュアルモードにしている場合には、状況に応じてシフトライトも表示され、ドライバーに、ステアリングホイールのパドルかセクターレバーを使ってシフトアップするよう促します。

インフォテイメントシステムの操作は、幅広く左右非対称のセンターコンソールに設置された円形のロータリープッシュボタンを介して行います。オプションで、タッチセンサー機能を備えたタッチパッドを組み込むことが可能で、それを使って文字入力や、複数の指を使っての画面のズーム/スクロールなどを行うことができます。ドライバーはまた、多くの日常会話を理解することができる、自然言語によるボイスコントロールシステムを介して、機能の選択を行うことができます。そのほか、数文字入力しただけでも検索結果が得られるインテリジェントなフリーテキストサーチは、マルチファンクションステアリングホイールとともに、操作の簡便性を大いに高める機能とっていいでしょう。オーディ MMI のディスプレイは、標準仕様では 7 インチですが、オプションの MMI ナビゲーションプラスを選択した場合には、8.3 インチになります。さらにオーディでは、新型 RS 4 Avant ユーザーのために、オートマチックコンフォート空調システムを用意しています。このシステムを選択すると、エアの温度と吹き出し口を、ドライバー、助手席、後席で独立制御できるようになります。設定温度は、空調コントロールダイヤル上にデジタル表示され、少ないボタンやダイヤル操作で、温度やエアをコントロールすることができます。LED ディスプレイは通常は暗くなっていますが、スイッチ類にはセンサー機能が備わっているため、指を近づけると機能が表示されて、ボタン操作で選択ができるようになっています。また、リヤのセンターコンソールには専用のコントロールユニットが設置されており、後席乗員はそれを使って温度設定などを行うことができます。

インフォテイメントと Audi connect

新型 Audi RS 4 Avant の日常的な使い勝手の良さは、豊富に用意されたインフォテイメントシステムのラインナップによっても明確に示されています。乗員は、走行中も常にその恩恵を受けることができます。なかでも、オプション設定されたハイエンドシステムの MMI タッチ付き MMI ナビゲーションプラスには、1,024×480 ピクセルの高解像度を誇る 8.3 インチモニターが含まれています。さらに、DVD プレーヤー、10GB のフラッシュメモリー、2 つのカードリーダー、AUX-IN（外部入力）端子、充電能力を備えた USB ポートといった多様な機能が装備されます。さらに Audi connect のハードウェアモジュールも付属しており、LTE テクノロジーを介して、インターネットとの常時接続が可能となっています。Wi-Fi ホットスポット機能を利用すれば、乗員はモバイル機器を使って、自由にインターネットに接続してウェブサイトの閲覧やメールの送受信を楽しむことができます。

さらに、標準装備される Audi connect セーフティ & サービスに含まれる諸機能も便利で役に立ちます。そのうちのリモート機能を使えば、ドライバーはアウディ MMI コネクトアプリを介して、離れた場所からクルマの状態や位置を確認することが可能で、ドアの施錠や開錠も行うことができます。このサービスパッケージにはまた、エマージェンシーコール、オンラインロードサイドアシスタンス、アウディサービスリクエストといった新しい機能も含まれています。

アウディスマートフォンインターフェイスにより、iOS 及び Android スマートフォンを、Apple CarPlay 及び Android Auto を介して、MMI 専用に開発された環境と融合することができます。

標準装着の 3D サウンドを採用したバング&オルフセン サウンドシステムは、大きくなったクルマの室内寸法をフルに活用したものになっています。システムの中核を構成するのは、755 ワット、16 チャンネルのアンプで、それにより合計 19 のスピーカーを駆動します。低音部の再生は、リヤのサイドパネルの背後に設置された 2 つのサブウーファーが担当します。その結果、コンサートホールのような響きが実現しています。

ドライバーアシスタンスシステム

新型 Audi RS 4 Avant には、合計 30 を超えるアシスタンスシステムが設定され、クルマの安全性、快適性、燃費効率を高めています。そのうち幾つかは標準装備に含まれています。

そのなかでも主要な役割を果たしているのが、トラフィックジャムアシストとストップ&ゴーの機能を備えたアダプティブクルーズコントロール（ACC）です。65km/h 以下の比較的低速で走行している条件下で ACC を使えば、加減速のほか、路面状態の良い道路上ではステアリング操作までシステムが代行してくれます。

衝突回避アシストは、ドライバーが障害物を避けるステアリング操作をサポートして、衝突の危険性を減らすシステムです。このシステムは、フロントカメラ、ACC 及びレーダーセンサーからのデータを使って、コンマ数秒のうちに、適切な回避行動を算出します。安全に関しては、他にもターンアシスト、パークアシスト、クロストラフィックアシストリヤ、エグジットワーニング、道路標識認識、アウディアクティブレーンアシストといったシステムが用意されており、様々な状況でドライバーをサポートします。



新型 RS 4 Avant には、アウディプレセンスシティのシステムが標準装備されています。このシステムは、85km/h 以下で走行している時にクルマの周囲を監視して、他の車両や歩行者を検知し、緊急時にはフルブレーキを発動させます。そのほか新型 RS 4 Avant には、ドライバーの車線変更をサポートするアウディサイドアシストも標準設定されています。

装備

新型 Audi RS 4 Avant は、標準仕様でも非常に充実した装備を誇ります。LED ヘッドライト、LED リヤライト、DRC 付スポーツサスペンションプラス、リヤスポーツディファレンシャル、20 インチ鍛造アルミ合金ホイール、RS エキゾーストシステム、アウディドライブセレクト ダイナミックハンドリングシステムが標準で採用されています。スポーティな装いは、ブラック基調のインテリアにも貫かれており、菱形パターンのステッチとランバーサポートを備えたレザー&アルカンターラの RS スポーツシート、フラットボトムの RS マルチファンクション スポーツステアリングホイール、ステンレススチール仕上げのペダル類が標準装備されています。同時に、RS 4 Avant のドライバーは、オートマチック空調コントロール、7 インチ カラーディスプレイを備えた MMI、Bluetooth インターフェース、アダプティブスピードリミッターなどにより、快適なドライブを楽しむことができます。さらに、予測効率アシスタント、アウディプレセンスシティ、アウディサイドアシスト、パーキングシステムプラス、衝突回避アシストといったアシスタンスシステム、リモート制御機能を含めた Audi connect セーフティ&サービスのパッケージなど、広範囲な機能が標準となっています。

4 世代目となる RS 4 Avant は、過去のモデルの成功を引き継ぐことになるでしょう。1999 年に初代が発売されて以来、アウディは、これまでに世界中で 27,000 台以上の RS 4 モデルを販売してきました。

ヒストリー

新型 Audi RS 4 Avant は、RS モデルのなかでも真のアイコンモデルと呼べるクルマです。他のモデルとは異なり、ハイパフォーマンスと日常での使い勝手を高いレベルで融合しています。このモデルの系譜は、1994 年に発売された伝説的な Audi RS2 Avant にまで遡ることができます。

1994 – Audi RS2 Avant : 強力なトレンドセッター

アウディは、1994 年に Audi RS2 Avant を発売し、大きなトレンドを生み出しました。RS2 Avant は、5 人用のシートと広いラゲージコンパートメントを備えた世界初の高性能スポーツカーであり、斬新なエクステリアデザインと洗練されたインテリアも、人々に大きなインパクトを与えました。直列 5 気筒ターボエンジンは 2.2 リッターの排気量から 232kW (315PS) のパワーを発生。RS2 Avant を、0-100km/h まで 5.4 秒で加速させ、262km/h の最高速度を実現していました。ブレーキやホイールといったパーツは、開発及び生産面でパートナーを務めたポルシェ AG から提供されていました。

1999 年 - コンパクトな排気量とハイパフォーマンスを両立させた初代 Audi RS 4 Avant

初代 Audi RS 4 Avant の開発には、直前にアウディ傘下に入ったばかりのコスワース テクノロジーLtd がパートナーとして参画しました。英国企業のコスワースは、quattro GmbH と協力しながら 2.7 リッターV6 バイターボエンジンのパフォーマンスを引き上げました。279kW (380PS) のパワーを発揮した初代 RS 4 Avant は、0-100km/h を 4.9 秒で加速する俊足モデルに仕上がりました。初代 RS 4 Avant は、市場で高い人気を得て、アウディは生産を予定の倍に増やすことになりました。

2005 – Audi RS 4 : 3 つのボディバリエーションを揃えた 2 世代目

2005 年には、第 2 世代の Audi RS 4 が登場します。当初は、Sedan と Avant の 2 つのバリエーションが設定されました（後に Cabriolet を追加）。このモデルは、新開発された排気量 4.2 リッターの高回転型 V8 エンジンを搭載していました。直噴システムを採用したこの V8 は、309kW (420PS) の



パワーを発生し、RS 4 Sedan を 0-100km/h 4.8 秒で加速させました。標準装備の quattro ドライブは、当時開発されたばかりの、前後非対称かつダイナミックにトルク分配を行うシステムを採用していました。また、初めてオプションで、カーボンファイバー セラミックブレーキが設定されていました。

2012 – Audi RS 4 Avant : 運動能力に秀でたオールラウンダー

第3世代の Audi RS 4 は、2012 年 2 月に、quattro GmbH により、ジュネーブモーターショーで発表されました。この世代では、ボディタイプは Avant のみが設定されました。旧モデルと同様、エンジンは 4.2 リッターの高回転型 V8 ですが、パワーは 331kW (450PS) まで増強されていました。

* 諸元数値は欧州参考値です。